

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.3
Q1 室内環境					0.30		-		3.2
1 音環境				3.0	0.15		-		3.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	-		
1.2 遮音				3.0	0.40		-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	3.0	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境				3.1	0.35		-		3.1
2.1 室温制御				3.3	0.50		-		
1 室温				3.0	0.38	3.0	-		
2 外皮性能				3.0	0.25	3.0	-		
3 ゾーン別制御性		マルチパッケージ型空調機により空調をゾーン別制御する計画とした。		4.0	0.38		-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境				2.7	0.25		-		2.7
3.1 昼光利用				2.2	0.30		-		
1 昼光率				1.0	0.60	3.0	-		
2 方位別開口					-	3.0	-		
3 昼光利用設備		昼光利用のトップライトを2箇所に設けた。		4.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30		-		
1 昼光制御				3.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	-		
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	-		
4 空気質環境				3.9	0.25		-		3.9
4.1 発生源対策				4.0	0.50		-		
1 化学汚染物質		内装材・塗装は全てF☆☆☆☆とした。		4.0	1.00	3.0	-		
4.2 換気				3.0	0.30		-		
1 換気量				3.0	0.33	3.0	-		
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0	-		
4.3 運用管理				5.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視				-	-		-		
2 喫煙の制御		全館禁煙とした。		5.0	1.00		-		
Q2 サービス性能				-	0.30		-		3.6
1 機能性				3.4	0.40		-		3.4
1.1 機能性・使いやすさ				3.3	0.40		-		
1 広さ・収納性				3.0	0.33	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	3.0	-		
3 バリアフリー計画		神奈川県バリアフリー条例に適合する計画とした。		4.0	0.33		-		
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30		-		
1 広さ感・景観				3.0	0.33	3.0	-		
2 リフレッシュスペース				3.0	0.33		-		
3 内装計画				3.0	0.33		-		
1.3 維持管理				4.0	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		内装、外装に防汚性の高い仕上げを採用する等の配慮をした。		5.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				3.5	0.30		-		3.5
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.8	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法に定められた25%増の耐震性を持たせた。		4.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.6	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		空調換気ダクトの長寿命化を図った。		5.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給排水管の長寿命化を図った。		5.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				3.0	0.20		-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20		-		
3 電気設備				3.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20		-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20		-		

3 対応性・更新性			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		1階階高は4,300、2階階高は4,000とした。	5.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率を0.06とした。	5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			4.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性		外部空調配管、天井裏スペースを十分確保した。	4.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		給排水管の維持管理のため、1階床下全面に配管ビットを設けた。	5.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		十分な天井裏空間を設け、配線した。	5.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		十分な天井裏空間を設け、配線した。	5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	3.3
1 生物環境の保全と創出		川と接した敷地東側の敷地境界線に沿って中木を帯状に密集させ、川と生物環境の連続性を保てるよう配慮した。	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		地域性のある材料の使用、空間提供、施設機能提供による地域貢献、防犯性に配慮した。	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.7
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用		屋光利用のトップライトを2箇所に設けた。	4.0	0.13	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		BEIm=0	5.0	0.63	-	-	5.0
4 効率的運用			4.5	0.25	-	-	4.5
集合住宅以外の評価			4.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		小学校給食、中学校給食、事務の各エリアに区分し、電気、ガス、水道の使用量を計測できるようにした。	4.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		環境委員会を設置し、水光熱データを情報共有(月1回)し、毎年度の削減目標を設定し「PDCAサイクル」を実行する計画とした。	5.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			3.0	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		水栓や便器等に省水型機器を採用した。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上げ材を容易に分別可能とした。配管ビットを設け、内装材と設備を錯綜させないようにした。	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率50%	4.9	0.33	-	-	4.9
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		自転車置場や駐車施設、駐車場導入路に配慮した。	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		廃棄庫や残菜処理室等を設けた。	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.50	-	-	
2 振動			3.0	0.50	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		各室の照度は要求水準書及びJISZ9110Iに準拠した計画とした。	4.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	